

つながって 未来へ
「おたがいさま」の ひろがるまちづくり

あったか元気便



2024/9/28
地域つながりセンター10周年記念
inJAくまびき営農センター

特定非営利活動法人
フードバンクしまね あったか元気便
大木 理之



あったか元気便

〇まとめにかえて(羅列的・雑感的コメント)

①:フードバンクのフィールドが「協働」を生む「プラットフォーム」、「ハブ」の役割を果たす。
地域の課題ごとに、地域の団体、市民と「小さな『協働』」を無数に積み重ねるスタイル
→いわば「ドット型協働のまちづくり」(ネットワーク型ではなく?)

→家族機能・地縁機能の衰退のなかで

地域課題の解決や改善「協同組合ブロック」+「地域・市民」との「協働の場づくり」 →「地域の共有財産」として

→「自分たちが考え」「自分たちで実行する」→「自治力」を育てる、高める。

②:それぞれの団体が自組織の「元気度アップ」につなげる

→「ねばならない」ではなく、自組織が取り組むことの「意味づけ」、「場づくり」

→「応援バザー」(松江保健生協)、「一品運動」(JAくにびき地区本部女性部)から見えること。

自分たちで咀嚼、自分たちの言葉で消化し取り組みを具体化する(だから、たのしい! 千・カ・ラを育てる)

→「元気度アップ」、「組合員でよかった(組織への信頼)」

③:「協同組合らしくを『取り戻す』?!」

→向こうに、ある利用者のくらしに思いを馳せることができる組織の千・カ・ラを育む

→「機能的つながり」から「生活者としてのつながり」へ



「米騒動」を乗り越えて 556世帯に届けました

夏休み8月便では、お米確保の目処が見つからない中、「何かしないと…」と思い、これだけしかありませんがお米を持ってきました」と30kgのお米を届けていただいた元小学校長先生のAさん、暑い中を、一軒一軒、よびかけのチラシを自分で印刷し知人宅を回り二十数軒から30kg以上集めていただいたBさん、自発的に寄付金を募り940kgのお米を寄せていただいたCさんなど、たくさんのおみなさんからの応援と想いを寄せていただき、様々な形で応援の輪が大きく広がりました。

また、一部購入も余儀なくされましたが、ここでも全国的な「米騒動」（お米の品薄状態）で購入もままならないなか、市内のお米屋さんのご協力も得ることができ、なんとか従来通りの数量のお米を利用の家庭に届けることができました。

おかげさまで、556世帯、2030人家族のおみなさんに約6.5トンのお米や食品を届けることができました。たくさんのおみなさまの応援に心より感謝申し上げます。

「食べ盛りのお子どもたち。スーパーにお米がなく、あってもいつもより高くなっていて困っていたところ、ご支援によるあったか元気便のお米で助かりました。本当にありがとうございました」とおかあさん（母子4人家族）から早速お礼のメールが届きました。

酷暑の中、合銀さんの36人など、のべ387人のボランティアが参加

19日から始まった食品のチェック・仕分けをはじめパッキング、引き渡しには、連日の酷暑の中にも関わらず、のべ387人のボランティアさんらが応援に駆けつけました。

夏休みの小・中学生、高校生の親子参加や山陰合同銀行の行員さん36人などが酷暑のなか作業しました。

ボランティアさんからは、「初めてこのような活動をされていることを知り、ぜひ参加したいと親子で参加しました。あたたかい気持ちになるとともに、この思いが食品をお届けする先の方にも届くと良いなと思います。またの機会にも参加したいです」（中学生と母親）、また、「自分の時間が人の役に立ったというだけで、うれしかった」（学生）などの感想が寄せられました。



JAくにびき女性部「ひとり一品運動」で夏休みを応援

JAしまねくにびき地区本部女性部さんは、夏休み便の食品確保が十分でないなか、「就学援助世帯の子どもたちに“元気”と“安心”を届けよう」と会員さんと市内のJAバンク11支店の店頭で「ひとり一品運動」（期間：7月中旬～月末）をよびかけ



ました。8月7日、集まった食品を諏訪支部長さんからフードバンクしまねあったか元気便に届けていただきました。

インスタントやレトルト食品をはじめ、子どもたちの大好きなお菓子など食品405セットと、お米110kgを寄せていただきました。

生協しまねさんは、注文表から「フードドライブ」

生協しまねさんでは、いつも使う商品カタログに掲載された指定食品から注文できる「新しいカタチのフードドライブ（食品の持ち寄り）」で子どもたちを応援する取り組みがはじまりました。

9日、小林専務さんから、呼びかけに応えた組合員さんからのレトルトカレー、パスタ、ツナ缶、お菓子など、軽ワゴン車いっぱい積み込まれた800点余りの品々が届けられました。



合同青果さんや上口福社会さんなどから、 240kgの野菜やくだものの応援

22日の受け取り利用世帯のおみなさんには、合同青果さんから届いたじゃがいも、タマネギ200kgをはじめ、上口福社会からミニトマト、きゅうりなど28kg、いーむ大根島さんのシイタケをはじめ、理容室ゼオさんが利用世帯に届けようと丹精込めて自家栽培されたシャインマスカットなど2種類のブドウ8.6kgと一緒に手渡ししました。



海を越えて、台湾の フードバンクからも応援

昨年4月に雲南市からの紹介でフードバンクしまねを来訪され交流のあった台湾の「楽林食物銀行慈善会」から、「あったか元気便のお子どもたちへ」とクッキーやクラッカーなど32kg余りのお菓子の応援が届きました。海を越えて温かい応援ありがとうございました。



「お昼ごはん+学習応援」にのべ25人の子どもたちが参加

この夏休みも、就学援助世帯を対象に7月28日から始まった「お昼ごはん+学習応援」は、津田公民館と古志原公民館でのべ4回開かれ、小学1年生から中学1年生まで、のべ25人の子どもたちとのべ17人のボランティアさんが参加しました。

学習応援では、両地区の地区民児協のみなさんや島根大学の学生、高校生のボランティアさんが夏休みの宿題に子どもたちと一緒に汗をかきました。

お昼ごはんは、それぞれ津田地区・古志原地区の民児協や食生活改善推進協のみなさんのナポリタンスパゲティやオムレツのお昼と手作りのフルーツポンチや水ようかんのデザートなど、子どもたちが大好きなメニューに笑顔が広がりました。

今年度から古志原校区での取り組みは古志原地区社会福祉協議会との共催開催となりました。



ボランティアさんから

今回初めて参加させていただきました。誰かのために、食料品一つ一つを丁寧に段ボールに詰めさせていただき、受け取る方々以上に温かい気持ちになりました。

今後も「あったか元気便」の活動を気にかけて、梱包のボランティアや寄付のお手伝いをしていけたらと思います。貴重な体験をさせてくださり、ありがとうございました。



毎日必要なお米や、子どもたちが喜ぶお菓子が家庭に届き、笑顔が生まれるのは素晴らしい事だと感じました。

たくさんのボランティアの協力、お米1合運動の協力、

たくさんの人とのつながりで笑顔につながるこのあったか元気便が、これからも皆の力で広がっていきますように…。この支援が知られない方々にも伝わることを願っています。

実際の作業により本当に困っている方々が具体的にこれだけいるのだということが理解できた。真に支援が必要な方に対して継続的に取り組んでいき、組織全体にも広げていきたい。



特定非営利活動法人
フードバンクしまね
あったか元気便
FOODBANK SHIMANE ATTAKA GENKIBIN



こんなメッセージをいただきました



今年は上の子が受験の為、受験生の母でもあります。いろんな覚悟を持って頑張らなきゃ!と思っていたところ元気便の案内がきて、たくさんの方に励まされている感じがしてとても心強く嬉しく思いました。感謝しかありません。(母子3人)

昨年より元気便を利用させていただき、大変ありがたい感謝しかありません。元気便はまさに宝箱で、普段買えないようなお品も多く子供達は大喜びです。また箱詰め作業の様子がテレビで紹介されているのをたまに拝見し、沢山の方々が関わってくださっていることに涙が止まりませんでした。(母子4人)

1年生の頃からお世話になっております。毎回親子でワクワクしながら箱を開けて机に並べて記念撮影をしたり、我が家の楽しみとなっています。ボランティアの方々からの暖かいメッセージも子育てでいっぱいになった私の支えになっております。(母子2人)

親としては長期休暇前の昼ごはんにする食品がとても助かりました。子はフルーツの缶詰が珍しくとても喜んでいました。なにもかも高騰して我慢ばかりの生活ですが、甘いフルーツに感動していました。(夫婦5人)

しじみとても大きく美味しく大喜びでした。みそ汁などのスープやレトルトカレー、すぐに使えるので帰りが遅くなった時やもう一品プラスにとても助かります。お餅の時も、お餅大好きなので嬉しいお正月でした。おやつは帰りの車の中で食べてしまいます(笑)すべてが値上がりで、何をかうか、減らそうか、一番安いか、ばかり気にしています。そんな中で、沢山の気持ちの入った幸せBOXはとても輝いて見えます。(夫婦6人)

中学生のお兄ちゃんもよく食べるようになり、朝炊いた5合のお米が綺麗になくなります。週に何回か麺の日を入れたりして節約していますが、お肉が食べたいお年頃で、食費もかかり、本当にやりくりが大変です。(母子4人)

ボランティア参加団体・企業のみなさま 40団体・企業

順不同、紙面の都合上、略称で掲載させていただいています(8月個人の方除く)

朝日公民館、古志原地区民児協、大庭地区民児協、朝日地区民児協、城北地区民児協、白湯地区社協、津田地区民児協、古志原高齢者クラブ連合会、サクラ高等学院、出雲高校新聞部、島根大学BBS、FUKUにいさん会、ダンスクラブ、松江キワニスクラブ、明和印刷、山陰合同銀行、松江土建、NTT 労組、JA ユニオン、全農林松江分会、一畑電鉄労組、リョウノーファクトリー労組、JP 労組松江支部、島根ダイハツ労組、中電プラント労組山陰、中電ユニオン島根原子力支部、中電ユニオン松江支部、パナソニックインダストリー労組松江支部、中電工業労組、島根県教職員組合、安来市職労組、県職員連合、全労金労組、政労連島根地連、島根県労福協、生協しまね、コープ共済連、JAしまね、松江保健生協、地域つながりセンター

フードドライブにご協力いただいた団体・企業のみなさま 14団体・企業

順不同、紙面の都合上、略称で掲載させていただいています(8月お米除く)

日赤島根県支部、バンブー、ヤマサキ、善導寺、Dew 建築設計事務所、理容室ゼオ、ファーム大根島、JA くにびき女性部、上口福祉会、楽林食物銀行慈善会、合同青果、松江土建、中四国農政局島根拠点、生協しまね